



湘北短期大学図書館 としょかんNEWS

vol.135
2021.1.25 発行

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、図書館のガイダンスも実施できず、さらには休館日も多くなり、学生のみなさんにはご不便をおかけしました。そのような状況でも本の貸出はそれほど減少せず、多くの学生のみなさんに図書館をご利用いただけたいようです。今号では恒例の「多読賞」と「読書ノートキャンペーン」、新企画「英語多読マラソン」のご報告をいたします。



「多読賞 2020」発表！

恒例！たくさん本を読んだ人ランキング



2020年度、図書館でたくさん本を読んだ人（＝借りた人）をランキング形式で発表。受賞者には、副賞として湘北ポイントと図書1冊、視聴覚資料1点をリクエストする権利が付与されます。リクエストされた本の展示コーナーを設置しますので、お楽しみに！（※この「多読賞」は今回を以って終了し、2021年度より「読書ノート大賞」へと移行します）

総合ビジネス・情報学科1年	
1位 M・Nさん	24冊
2位 M・Mさん	16冊
2位 W・Tさん	16冊

生活プロデュース学科1年	
1位 A・Kさん	36冊
2位 N・Aさん	18冊
3位 K・Tさん	15冊

保育学科1年	
1位 N・Tさん	55冊
2位 H・Tさん	42冊
3位 M・Kさん	32冊

教員	
1位 P学科T先生	166冊
2位 L学科M先生	79冊
3位 B学科H先生	72冊

総合ビジネス・情報学科2年	
1位 A・Mさん	40冊
2位 K・Dさん	31冊
3位 S・Iさん	14冊

生活プロデュース学科2年	
1位 K・Hさん	25冊
2位 K・Aさん	15冊
2位 S・Iさん	15冊

保育学科2年	
1位 M・Fさん	108冊
2位 S・Fさん	95冊
3位 K・Tさん	65冊

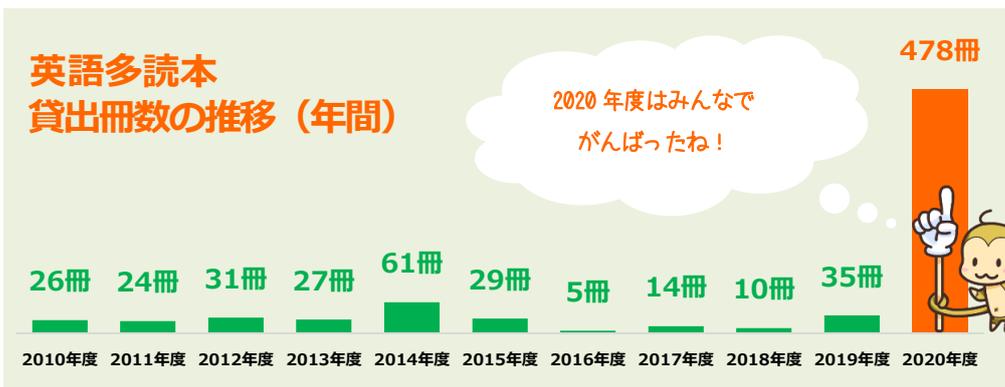
職員	
1位 総務Tさん	133冊
2位 教務Tさん	128冊
3位 財務Yさん	102冊



初！「英語多読マラソン 2020」

とにかく英語の本を読んでみよう

オーストラリア短期留学ができない中、少しでも英語や国際交流に対してのモチベーションを上げていただくための新企画を実施！図書館にある英語の本をたくさん読む「多読」という英語習得法にチャレンジしていただきました。読んだ本のワード数を競う中、19L みみずくさんは、なんと11冊9,900ワードを読破しました。参加者は教職員も含み総勢154人、開催期間中の読破総数は389冊でした。2020年度、英語多読本は478冊の貸出となり、ここ10年間で最高となりました。眠っていた本も大喜びです。「存在に気づいて、読んでくれてありがとう！」これをきっかけに、継続して英語多読本にチャレンジして英語力アップを目指してください。



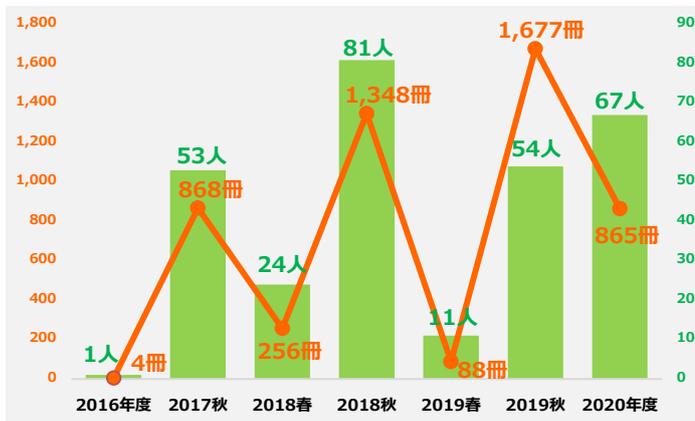
最終結果！個人ランキング

1位 19L みみずく	9,900 word
2位 20B てーか	2,900 word
3位 20B ゆかり	2,600 word
3位 20B きりもち	2,600 word

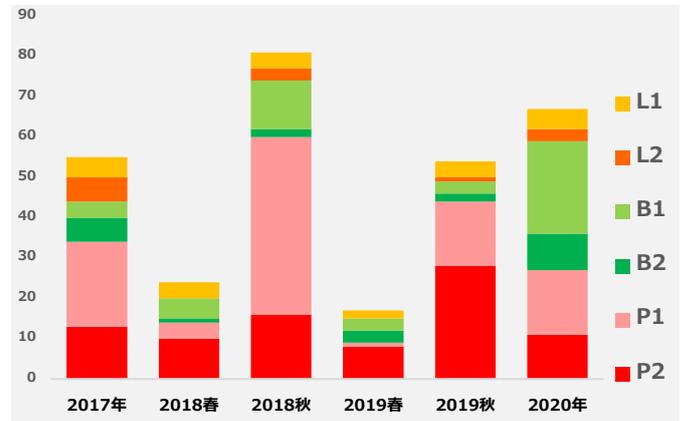


2020年度、読書ノートをリニューアルしましたが、学生のみなさんにお知らせする機会がありませんでした。後期の対面授業開始から「英語多読マラソン」、「秋の読書ノートキャンペーン」、「絵本の福袋」など開催し、図書館で借りて読んだ本を読書ノートに記録するきっかけにいただきました。湘北では長年、この読書ノートの取り組みをしてきましたが、キャンペーンを拡大したのは2017年からです。以下グラフで、これまでの推移をご参照ください。今年度はB学科1年生の参加が増えたことに注目ですね。

読書ノート参加の推移：人数・冊数



読書ノート参加の推移：学科・学年別



「読書ノート」ってなに？

湘北生なら必須の読書アイテム

読書ノートは自分が読んだ本の要点や感想を記録するためのノートです。本を読んだその時は「これはすごい！」と感じても次の日には忘れてしまう…なんてことはありませんか？せっかく時間をかけて読んだ本です。もう「読みっぱなし」からは卒業して、全てあなたの読書財産にしましょう。目標は1年間で50冊、2年間で100冊読破！みなさん、ぜひ、チャレンジしてください。

読書ノートは、湘北ポイントを付与しています

- 本1冊の記録で湘北ポイント20ptを付与
- 対象となる本は、図書館で借りた本（雑誌・新聞は対象外）

連載

リレーエッセイ vol.51

「私と図書館」

総合ビジネス・情報学科

北川栄里子

人生で最初に抱いた夢は絵本作家になることだった。実は今も諦めていない。小学生の頃は放課後図書館に毎日通い、5冊をその日に夢中になって読みきり、翌日また5冊借りることが一番の楽しみだった。夏休みの自由研究は毎年本を100冊読んで感想文を書いた。

内気で友達の輪にはいることが苦手だった私にとって、図書館が一番落ち着く場所であり、本が一番の友達だったのだ。シリーズものが好きで「ぼくは王さま」「ぼっぺん先生」「マガーク少年探偵団」が好きだった。心に残る一番大好きな作品は、教科書にのっていた安房直子さんの「鳥」。本の世界では魔法を使ったり冒険をしたり、主人公になってその世界に浸ることで自分の世界が広がるような気がした。大人になってから読んだ「ハリーポッター」も好きだが、頭の中の人物達を大切にしたいので、映画は見ない主義である。

中学生になり本よりお友達とのお喋りが楽しくなる

につれ、図書館から足が遠のいたが、高校時代は友達とよく日比谷図書館に行った。勉強が目的ではなく、他の高校の友達が増え社交場のような存在だった。純粋に勉強のために通ったのは大学院時代だ。勉強は静かすぎてもうるさすぎても構わない。家だと集中できずカフェの喧騒は他人の会話が気になり、静かな他人に囲まれる図書館は勉強に最適である。今でも仕事や勉強をしたい時は図書館の自習室に足を運ぶ。お気に入りの吉祥寺図書館は街中にあるので、外での空き時間は雑誌コーナーに立ち寄る。最近は娘と一緒にという状況も加わった。目の前に絵本を20冊山積みにして、小さな娘の温もりを感じながら読み聞かせてあげる時間は至福である。図書館はまさに私のサードプレイスだ。



「風と木の歌：童話集」
安房直子著
偕成社/2006